

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号
------	-------	---

氏 名 中 川 名 帆 子

論 文 題 目

新任看護系大学教員のオンライン学修プログラムによる  
教育実践に関する知識獲得の効果と  
オンラインコミュニティの学外支援としての有用性の検討

論文審査担当者

主 査	名古屋大学教授	西谷 直子
	名古屋大学教授	佐藤 一樹
	名古屋大学教授	本田 育美

## 論文審査の結果の要旨

日本において看護系大学が増加し、教員の確保と同時に質保証が課題となる中、体系的な教育プログラムやシステムが整備されていない。大学では教員の職能開発のために Faculty Development (以下 FD) が義務付けられているが、多くの大学において新任教員に対する FD 企画が少ない上、企画に困難を感じている。また大学院教育においても教育実践能力に関する体系的な教育は十分とは言い難い現状がある。さらに臨地実習指導による時間的・空間的制約がある教員が、長期間にわたって学外研修に参加することは現実的でない。そこで新任教員が教育実践に関する知識を獲得するための方略として、オンラインを活用したプログラム提供が有用と考え、教育プログラム提供による知識獲得への効果と、オンラインコミュニティ上でのディスカッションの学外支援としての有用性について検討した。

教育経験 5 年以内の教員 (助教・助手) を対象に、参加者を層別置換ブロック法にて 2 群 (介入・対照) に割り付けた。介入群には、教育に関する知識やスキルについて教授する非同期型オンラインの学修プログラムと、オンライン上のディスカッションサイトを提供した。プログラム提供前と後に介入群 54 名と対照群 43 名ともにアンケートを実施し、介入前後の比較を行った。また、オンラインディスカッションへの参加への感想を自由記述で求め、記載内容を分析した。




本研究の新知見と意義を要約すると、以下のとおりである。

1. 教育プログラムの介入により、教育実践に関する能力として『学生理解・支援』『シラバス・クラスデザインの作成』『教育理論の理解』の項目が対照群と比べ有意に高い得点を示した。一方、『講義・演習の実施』の項目は 2 群で有意な差は認められなかった。
2. オンラインコミュニティ上でのディスカッションへの参加により、「ディスカッションで得られる学びと自己肯定感」が導き出された。
3. 非同期型オンライン学修プログラムにより、教育実践能力において、知識獲得には有効であること、また学外支援としてオンラインコミュニティへの参加は、新任教員が相互に支援する効果が発揮される可能性が示唆された。

なお、本研究の成果は Nagoya Journal of Medical Science 誌 (Impact Factor: 0.794) に掲載された。

以上の理由により、本研究は博士 (看護学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第	号	氏名	中川 名帆子			
試験担当者	主査	名古屋大学教授	西谷 直子 	名古屋大学教授	佐藤 一樹 	名古屋大学教授	本田 育美 
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護系大学新任教員の現任教育として、学内および学外研修参加の現状と課題について</li> <li>2. 看護系大学の新任教員が獲得すべき教育実践能力について</li> <li>3. 教育プログラム介入および評価を行う際の留意すべき事項について</li> <li>4. 脱落者の取り扱いと解釈について</li> <li>5. 本研究知見の看護学教育への展望</li> </ol> <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、<u>看護学</u>一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>							